

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670400803		
法人名	有限会社 敬愛会		
事業所名	グループホーム こもれびの家		
所在地	米沢市花沢3612番地の1		
自己評価作成日	平成 26年 2月 14日	開設年月日	平成 15年 7月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 3月 19日	評価結果決定日	平成 26年 4月 14日

(ユニット名 ぽぷら)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

わたしたちの事業所は「笑顔が見たい 役に立ちたい」のスローガンのもと、お一人おひとりの思いを汲み取ることができるように、利用者様がどのように考えられるかを最初に考えて支援させていただいております。そして、御家族様の思いと御本人様のこれまでの生活歴を尊重し、居室担当制にて信頼関係を築きながら、楽しい時や嬉しい時は共に笑い、悲しい時は共に泣き、よき理解者となるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

*1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部 項 目			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも見ることができるように、玄関脇に掲示しており、理念一つひとつの意味を考えて、同じ捉え方ができるようにスタッフ会議にて話し合い、毎日の唱和を行うことで、意義・目的を共有しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として挨拶を行い、顔馴染みの関係になれるように努めております。また、御近所の方より収穫された野菜や果物をいただき、その作物で漬物作りを教えていただいたりしております。自主防災組織の一員としても互いに意見の交換を行っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議の場を活用して、事例や事案などを聞かせていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議では、相談員の方などからいただいた、ご意見や評価についての話し合いの時間を持たせていただき、みなさまより意見を頂戴し、サービスの向上へと活かせるように努めております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議へ参加いただいた際や、訪問や電話などで相談させていただいております。また、相談員の受け入れを行い、関係づくりに努めております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての研修会や、毎月のスタッフ会議での意見交換にて、身体拘束をしないケアを実践しております。また、日中帯は玄関の鍵をかけずに対応させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修会や、毎月のスタッフ会議での意見交換にて、虐待ゼロに取り組んでおります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修会を開催し、全員が理解し活用を支援できるようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書も併せて、必要書類の読み合わせを行い、説明させていただいております。また、利用者様や御家族様の思いに寄添うことができるように、話し合いの場を持っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット毎の玄関に、用紙と投函箱を用意し、面と向かっては言いにくいことなどを聞き出せるようにしております。面会時には、利用者様の状況を報告させていただくと共に、御家族様の思いを伺い、把握した内容は送りノートにて共有し、反映へと繋がるようにしております。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも話しやすく相談しやすい環境をつくるようにしております。また、日頃の送りやスタッフ会議の場などで、率直な意見を聞き出せるようにし、意見の交換を行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、個々に目標を掲げて、月末には自己評価を行うことで、自分のケアなどを振り返り、翌月へと繋げることができるように、はたらきかけをしております。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に沿った職場内研修と、職員の段階に応じた外部研修への受講にて、報告書を作成し、報告会にて意見を交換し合うことで、統一したケアや質の向上へと繋がるように取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県やグループホーム協会主催の研修への参加等により交流を図ることで、改善できることや参考となる内容等を報告し、共有することでサービスの質の向上へと繋がるようにしております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の要望や、不安に思われていること等をしっかりと受け止めることができるように、ゆっくりと話を伺っております。入居後も他利用者様と馴染みの関係を築けるように、担当職員を中心にコミュニケーションを図るようにしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の思いや要望が、話しやすいものとなるように場所や時間等を柔軟に対応させていただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の申し込みをいただき、面接等を経た段階で、御利用者様の必要とされている支援内容と、ホームの支援内容が合致するのかが等話をし、必要であれば、適切であろう機関を紹介させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様を敬い、支援させていただいていることを念頭に置き、思いを汲み取れるように寄添い話を伺い、適切に支援させていただけるように努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者様の理解者であり、拠りどころでありますので面会の際にはゆっくりと話をさせていただけるように配慮しております。面会が少ない御家族様には電話や手紙にて近況を報告させていただくことで、共に御本人様を支えていく関係づくりに努めております。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御兄弟や御友人の面会の際には、記念写真を撮らせていただいたり、御親戚や御友人宅への外出支援等、馴染みの関係が継続できるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人おひとりの個性を把握し、馴染みの関係を築いていけるように、配席などに工夫しております。また生活リハビリやレクリエーション活動のなかで交流を図れるように支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御利用者様・御家族様が必要とされた際は、出来る限りの支援をさせていただいております。また転居先に訪問させていただき情報交換をさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制とし、担当者が一番の理解者となれるように気付きを大切に、信頼関係を築けるように努めております。また、日頃の申し送りやスタッフ会議の場で、意見交換を行い、その方をよりよく知ることができるように努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメントにおいて、生活歴をお聞きし、センター方式に落とし込み、ケアプランに反映するようにしております。また、サービスを受けていられた方に関しましては情報をいただいたり、電話にて相談させていただくことで十分に把握できるようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、定期的な見直しを行うことで、できること・支援の方法によりできることを見極め、現状の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に居室担当者がモニタリングを行い、御本人様の思いをケアプランに反映できるようにしております。それを基にカンファレンスのなかで、御家族様の思いや他職員の意見などを反映させております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が目を通して、わかりやすいように記録することとしております。記録はケアプランに沿ったものとし、ケアプランの実施状況に反映できるようになっております。また居室担当者からの申し送りにて、様子をみてほしい内容があれば記入し、情報の共有に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高校生や民謡会・日舞等のボランティア訪問にて、外からの刺激を受けながら楽しみのある生活が送れるようにと支援しております。また御近所の方との、お茶呑みの場となるように、はたらきかけをおこなっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力医より往診をしていただいております。また入居前の、かかりつけ医への通院を希望される御利用者様には、御家族様からの協力をいただいたり、必要に応じてお手伝いしております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時に、お一人おひとりの状況をお伝えし診ていただき、必要に応じて電話にて相談させていただき連携を図っております。また、24時間体制の訪問看護を受けていられる方もおられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、医療機関との情報交換にて、状況の把握ができるように努めております。また、入院先に出向き、看護師さんや相談員さんからお話をいただくなど情報を交換し、退院に向けてのはたらきかけを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人様や、御家族様の意向を踏まえたうえで、ホームでできるケアの内容を説明させていただいております。終末期ケアについては主治医より御家族様にホームで対応させていただける内容を含めての話をさせていただくことで、御家族様・医療関係者・ホームが共にチームで支援させていただく旨をお伝えしております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習会に参加し習得しております。また避難訓練の際にも、消防署の方より、急変や事故発生時の対応について質問させていただき、不安なことのないようにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者主導のもと、年2回の避難訓練を実施しております。また、地域の防災組織にも加入しており、協力体制も整えております。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いになることのないように、尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけを徹底しております。またスタッフ会議の際にも、適切な言葉かけについての意見交換を行い、互いに意識付けが図れるようにしております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりが思いを伝えることができるように、常に視線を合わせ、一呼吸おいた、ゆとりある関わりのなかで自己決定できるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活歴も参考にさせていただきながら各々の生活リズムが継続できるように支援させていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で、洋服を選んでいただいております。また、行事や外出の際は、居室担当者と共に、よそゆきの洋服を選んだり、マニキュアをつけるなどの楽しみを持っていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの嗜好を考慮し、その日の公告を参考に旬の食材に気を配りながら一緒に献立を考えたり、郷土料理を教えていただきながら、買物や調理をしていただいております。食後は食器拭きや台拭きなど、各々が役割を持たれております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当にあたるユニットが毎日の献立を作成しております。食事量・水分量・塩分量・その他の禁食等を考慮しながらバランスの摂れた食事の提供を心掛けております。また嚥下の状態に応じて提供の仕方を工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがいと口腔体操、毎食後の口腔ケアを徹底しております。みなさんが習慣化され、食後はすぐに洗面所へ向かわれております。必要な方にはお手伝いさせていただくことで清潔保持に努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを排泄表により把握し、排泄のお手伝いをさせていただいております。トイレへの声掛けはプライバシーに配慮し行うことを徹底しております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷水提供や、朝食時にヤクルトを摂っていただく、毎日の体操にて定期的な排便を促しております。必要に応じて、医師に相談し排便コントロールを行う場合もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めずに、その日の体調や気分に応じて入浴できるように支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きる時間や寝る時間を決めるのではなく、お一人おひとりの習慣や体調に応じて対応させていただいております。また昼寝をされない方には、生活スタイルを尊重し、適度な運動を支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の効能や副作用について、全職員が理解し扱うことができるように徹底しております。また会議の中で、勉強会を開催することで把握していくことに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を伺い、ホームに入居されてからも可能な限り続けていただいております。植木鉢を持参され水やりをされたり、塗り絵や書道・編物をされたりと、各々が趣味や嗜好を楽しく続けていただけるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に食材を購入する為に近くのスーパーへ出かけております。また気分転換に居室担当者と共に外食やドライブ・天候をみて他利用者様との散歩等に出かけたりと各々に応じた支援をさせていただきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所の際に御家族様との話し合いのうえ、御本人様の希望を尊重して支援しております。金銭管理が可能な方は、ご自分で管理していただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された際は、その方に応じたお手伝いをさせていただき、電話をかけて話していただいております。また、ご自身で書くことが困難になられた方に対しても居室担当者が、お気持ちを配慮し年賀状を作成し送付させていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	LD・廊下共に天窓を開放することで季節毎の光や風を感じていただくことができます。また視覚的にも季節を感じるできるように、利用者様と職員が共に作品をつくり掲示させていただいております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	LDのソファで休まれる方・廊下の長椅子で馴染みの方と昔語りをされる方・廊下に掲示してある写真をながめながら散歩される方など各々が思い思いに過ごしていただいております。冬場は和室のこたつにて、横になられたりと、ゆったりと過ごしていただいております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お茶碗や箸・湯呑み・タンスや趣味の扇子や御家族様の写真など、お一人おひとりの馴染みのあるものをお持ちいただき、居心地良く過ごしていただいております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの「できること」「わかること」を十分にアセスメントさせていただき、安心・安全な自立支援が行えるようにしております。		